



ちょっと釣り道

【釣り道のウラ道】

Vol.23

①真冬の山口周東の海は、まさしく日本海の冬景色。寒いとよ! ②各地のいろんな朝日のビームを浴びれるのは釣り人の特権 ③密かに筆者の専攻(笑)はアジングって鱈を釣るヤツ ④サゴシ(鱈の幼魚)はもはやお馴染み。アジングでも釣れるんです ⑤九州の脊梁に潜む山女魚たちよ、永遠に・・・ ⑥自分の視覚・色覚よりもiPhoneの画像が美しいやんて(笑)

12月号でネコたんの記事を書かせてもらった後、歩いて来た釣り道を振り返ってみました。

2021年の4月号がスタートで、はや22回の連載を続けさせていいただきました。第一回目の原稿を書いていたのが、2020年の12月くらいのことなので、ちょうど3年前ということになります。

はじめは、筆者の知人を記事化するのに鹿児島島に出張したこともあり、当時のFFGビジネスコンサルティングの代表から筆者の趣味の釣りのことでもなにか書いてみたら、といたずらっぽくご提言をいただいたことがスタートでした。

書く方も実はまんざらでは無かったのが本音のところですが、一方でFFGの歴史ある金融経済の冊子に「釣り」のこと!?!という戸惑いもありました。趣味のことを書き出したらキリがないし、自分本位の文章になるのを避けるため、書かせていただくにあたり自らに課したことがあります。

①釣りの技術的なことは書かない。自分の一番得意とする釣りのジャンルについては書くまい。

確かに「釣り道」というタイトルではありますが、釣り自体のことよりも、美しく恵まれた九州の風土や自然、そしてその土地にまつわる歴史や民芸など自分が感じてきた魅力や物語を楽しくわかりやすく

伝えられたら、と考えてきました。

また、記事に必要な写真達。基本的には私個人の歴代のiPhoneの写メだけです。それに数万枚の撮り溜めがあり、そこから各テーマに沿う写真を選んでそれを記事化しただけなんです。逆にここ数年その釣りをしておらず、テーマを決めて慌てて釣りといった魚もあります。

例えば、二話前の雷魚。これはビジュアル的にはキモい魚の代表格なのですが、私の釣り遍歴を披瀝し佐賀市に住んでた思い出を語る上で外せませんでした。

10年くらい前までは結構釣ってましたが、当然その頃の画像データはありません。10月の上旬には入稿しないと間に合わないので、何度か佐賀まで釣りに行きました。魚はアタックしてくれるけどバツたり(針が外れて逃げたり)して釣り上げきれず(泣)左手首の再手術が10月の第一週に迫る中、南国系の雷魚はそろそろ冬眠の季節。

10月7日に退院し、リハビリを兼ね9日に再トライし、日没寸前に魚がヒットしてくれ、ギリギリ校了にも季節的にも間に合いました。

まあ過去にも書きましたが、日本国内だけで数千種の魚種が息しています。そこまででないにして

も書くネタには事欠きません。

自分勝手に気ままに書かせてもらってきたことには本当に感謝なんです。連載を続けて来る中で協力していただいた方々を語らずにられません。常に心地よくバックアップしていただいた編集のOさん、またお忙しい時間を割いて美しい写メを撮っていただいて協力していただいたi.t.o氏とM氏には感謝しありがとうございます。この場をお借りし御礼申し上げます。

：あとネコたん達にもね(笑) ほとんどが素人同然の私個人の写メと拙い記事にお付き合いただいたこと、ありがたいばかりか申し訳ない思いでいっぱいです。

お気づきの方がおられるかわかりませんが、経済の冊子の中にある違和感というか不自然とも言える釣りの記事。実はお伝えしたかったのは普段の日常やビジネスの合間からちよつとはみ出してみても、あるいは一歩踏み出してみるだけで、気づけなかった、垣間見えなかった美しい世界や心象風景がそこにあり、その新しいストーリーに触れられるということをお伝えしたかったのです。

私はたまたま「釣り道」をそぞろ歩きしてきたことで気づけたのかもしれません。皆さまもいろんな「道」を歩かれていますか。そんな「道」のハナシ、いつかお聞かせ願いたいものです。